

令和 7 年度 第 2 回生活支援・介護予防体制整備推進協議会 議事録

日 時 令和 8 年 2 月 9 日（月） 10：00～11：15

場 所 刈谷市役所 防災会議室

出席者：

区 分	所 属	名 前
生活支援コーディネーター （SC）	刈谷富士松地域包括支援センター	座馬由華
	刈谷雁が音地域包括支援センター	宇佐美めぐみ
	刈谷中部地域包括支援センター	倉川叔子
	刈谷中央地域包括支援センター	神谷友貴
	刈谷依佐美地域包括支援センター	後藤雅浩
	刈谷朝日地域包括支援センター	清水玲
	刈谷市ちょこっとささえあいセンター	加藤康子
各種団体を代表する者 （民間企業・NPO法人・ 協同組合・ボランティア）	刈谷商工会議所	岡田行永
	株式会社ジェイテクト	杉山倫行
	刈谷市療法士連絡会	岩丸陽彦
	かりや愛知中央生活協同組合	林孝志
	刈谷市民ボランティア活動センター	近藤義夫
民生委員	刈谷市民生委員	早川とし子
社会福祉協議会の職員 （社会福祉法人）	刈谷市社会福祉協議会	梅本秀之
アドバイザー	障害者福祉施設サンサン大府	塚本鋭裕

1 議 題

（1）ちょこっとささえあい

発言委員等	意見
委員	- ちょこっとのおかげで足が弱ってお家からなかなか出られない人が、窓ふきや草取り等ヘルパーに頼めないお願いをすることができている。 - 雁が音地区では一ツ木地区がモデル地区として最初に開始したが、泉田地区などの他の地区でも使いたいという声が出ていたので、12月から全地区に広がって良かった。 - ヘルパーを頼むよりゴミ捨てだけ等、内容が限られるならちょこっとを利用したほうが良いと考えている。ちょこっとなら他の人に頼り過ぎないで自分でやれることはやるという気持ちを維持したまま生活ができる。
委員	ヘルパーを使いつつ使えないところはちょこっとを使う人もいれば、そもそもヘルパーが使いたいと申し出があってもちょこっとで大丈夫な人ならば、こちらからちょこっとの利用を提案することがある。
委員	利用者が増えておりサポーターの数を確保する必要がある。サポーターを増やすために今後も地区での説明会を開催していきたい。

（2）高齢者の状況、リエイブルメントのモデル実施

発言委員等	意見
会長	先日研修会に出たが、近隣の市の中でもリエイブルメントの考え方を進めていかなくてはいけないという話が出ていた。刈谷市でもこのタイミングで事業を進められているのは良いことだと思う。

(3) リエイブルメントのモデル実施の結果

発言委員等	意見
委員	・ リエイブルメントに参加している人の様子を見ると、最初は恐々していたのが、1対1での療法士との面談を続けアドバイスを受けると、徐々に話すのが楽しくなっていくのが分かる。関係性ができて話が進むようになると療法士の気づきも増え、その場で多くの提案ができるようになる。面談が終わった後もがんばって取組みを続けている人が多い。
アドバイザー	・ リエイブルメントの取組みの結果は良い形で出てきている。一人一人の方がどれだけ元の生活に戻れたか長い目で見ていく必要がある。モチベーションの維持、終了後の評価やその後の関わりをどう続けていくか考える必要がある。 ・ 評価をする中で有効な結果が出た人の特性を共有してマッチングをかけられると良い。また、他のサービスを含めてその人の特性に合うものを見極めてサービスを提供していく必要がある。 ・ この事業を周知していくことが重要である。この事業が一人一人の生活にどう活かしているかをPRし、丁寧に事業の目的や内容を伝えていくこと。

(4) リエイブルメントの課題・解決と今後の展開

発言委員等	意見
委員	・ リエイブルメントへの取組みを促す際は「あきらめたことが、もう一回できるようになれば嬉しいですね」と声掛けしている。
委員	・ リエイブルメントという言葉は理解されていないので、困っていることの解決ができる、やりたいことができるようになるプログラムであると説明している。本人が諦めていることを引き出せるとリエイブルメントにつながりやすい。その後は利用者がやりたいことを目標に設定しているので、やる気があり、意思を継続できる。
アドバイザー	・ 年齢が75歳頃の方と85歳以上の方でリエイブルメントを受ける時に違いはあるのか。
委員	・ 再び元気な生活を取り戻すというところは同じだが、年齢によって目標とする内容は変わってくる。ただし、リエイブルメントはそれぞれの個人でやる内容を決めるので、利用者の思いに寄り添うことができる。高齢者でも努力してがんばっている人は多い。家族に制限をかけられたりしてできないことが多くなっていた人でも、療法士からアドバイスをされることによりできるんだという自信が付き、生き生きとした気持ちになれている。
委員	・ 年齢に関係なく目標は各自で定めることができ、達成に向けて努力することができる。若い人ならば立ち直ってからの生活が長いというのはあるかもしれないが、年をとってもやれるようになって嬉しいという気持ちは同じである。
委員	・ 実施事業所を増やしていくとあるがどうしていくのか。
事務局	・ 現状、事業所の受入が1か所につき、同時に3名の方の受け入れが大体である。通所を基本で考えており、これから受入の日数と人数を増やしていきたいと考えている。
アドバイザー	・ リエイブルメントに新しいネーミングを付けることが大事である。以前できていたことが再びできるようになることと結び付けるため「エンパワーメント」、「元に戻す」、「やりたいことをやれる」という言葉を使うと良いと

発言委員等	意見
	思う。 ・ リエイブルメントの入口と出口の部分で包括支援センターとの共有が必要である。また、デイサービスなどの通所介護の人にもこの事業について学んでもらえると良い。緩やかな形でも情報共有を進められると良い。

(5) 高齢者サロンの推進

発言委員等	意見
アドバイザー	・ 高齢者サロンが広がったのは良いと思う。これからは麻雀を実施するサロンに最初の30分間健康体操を取り入れてもらう等、インセンティブやハードルを設定することにより、より介護予防に結びつけられる補助制度にできると良い。

(6) その他

発言委員等	意見
アドバイザー	【全体統括】 ・ 互助的な活動を進めていくことは介護予防や生活支援の中で重要なことであるが、全て地域に任せるのは難しい。ちょこっとささえあいやサロン活動を進めるうえでも、行政がうまく関係性をサポートして取組みを後押ししていくのが大切である。 ・ 本日話し合った取組みを高齢者へ情報提供していくことが重要である。介護保険を含めて、総合的に活用できる日常生活での事例を広められると良い。
事務局	【報告】 ・ 次年度開催日時について 第1回 令和8年7月23日（木）101会議室 10時～ 第2回 令和9年2月10日（水）701会議室 10時～